



横浜国立大学 教育学部

YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY 学校教員養成課程
College of Education



大学生になる
ここで教師になる



横浜国立大学教育学部 学校教員養成課程 パンフレット

横浜国立大学 教育学部 広報委員会
〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-2
TEL. 045-339-3491 (学務第一係)
045-339-3261 (入試係)
FAX. 045-339-3264

<https://www.edu.ynu.ac.jp/>

デザイン・制作：株式会社マイトベーシックサービス
2020年度作成



未来を切り拓いていく 教育のプロフェッショナルを目指して

変化の激しい現代の社会の中で、学校は、様々な課題に直面しています。でも、いろいろな個性をもった子供たちがいるからこそ“先生”は楽しい。“生きる力”をもった未来の子供たちを誇りを持って育てていきませんか？
学校教員養成課程では、現代社会の中の教育を考え、様々な問題を解決し得る総合的資質を持った教員を養成します。

学部長挨拶 これからの教育のために

横浜市は豊かな自然に恵まれた大都市です。そのほぼ中央に位置する横浜国立大学は、緑あふれるキャンパスの中に充実した学習環境を備え、県内・国内はもとより、海外にも研究の場を広げ活躍する優れたスタッフが揃っています。本学の目指す4つの実践的「知」、すなわち「知識・教養」「思考力」「コミュニケーション力」「人間力」を身に付けた人材の育成のための多彩な教育カリキュラムが準備され、留学生を含む多様な学生たちが伸びやかに学んでいます。

中でも本学教育学部は、教員になりたい人のための学びの場です。神奈川県唯一の国立大学教員養成系学部として、様々な新しい試みに取り組みながら、実践的・先進的な資質・能力を身に付けた教員を養成しています。教育学部は、本学の中で最も歴史の長い学部で、明治9年開学の横浜師範学校に始まり、その後継組織として、昭和24年には横浜国立大学学芸学部が誕生しました。その後昭和41年に教育学部、平成9年には教育人間科学部と、社会のニーズにあわせて成長を続け、平成29年度には本学一体の教育組織の改編によって、教員養成を目的とする1課程の学部である教育学部と

して再スタートしました。つまり、現在の本学教育学部は教員養成に特化した学びの場となっているのです。

ご存じのとおり、現在、教育の現場は多くの困難に直面しています。その要因は必ずしも教育の現場だけで解決できるものではなく、時間をかけて社会全体で取り組んでいかなければならない問題も少なくないでしょう。社会全体で問題解決に向けて取り組んでいく中で、成長していく子供たちの側に立ち、寄り添い、支えていくことができるのが教師という仕事です。神奈川県内には現在100万人を超える子供たちが住んでいます。その数は、しばらくの間、ほとんど減少しないと予想されており、神奈川県内の教育現場はともに未来を切り開いていくための優秀な人材を常に求めています。実際、県内の小学校・中学校・高等学校では、毎年合計2000人以上の教員を募集しており、卒業生たちが次々と現場へと羽ばたき、様々な形で活躍しています。

本学教育学部では、社会のニーズと要請に応え、県内各教育委員会と連携した教員養成及び教員研修等を通して、地域とつながる実践的で先進的なカリキュラムを用意しています。そして、地域にも世界にも繋がることのできるグローバルな視点から、教育の未来を切り拓くことのできる人材を輩出することを目指します。そのために私たちは多様な入学試験を用意し、様々な人材がともに学ぶことのできる教育学部を築き上げてきました。

本学教育学部は、教師となって、子供たちとともに教育の未来を切り拓いていきたい皆さんを歓迎します。皆さんと一緒に学べる日を心から楽しみにしています。



教育学部長
木村 昌彦

柔道、スポーツ科学、中学校武道必修化等を中心に研究活動を展開。2016年リオデジャネイロオリンピック柔道選手団チームリーダーを務め、神奈川県体育学会会長、横浜市教育委員会教育委員等も歴任している。

令和3年度に「学校教員養成課程」へ

教育学部は、神奈川県内唯一の国立大学教員養成系学部であり、地域の教員養成の中核的存在として従来以上に重要な役割を果たしていくため、課程名称を「学校教員養成課程」に変更します。1年次から4年次までの小学校、中学校、特別支援学校等における様々な実習や現場体験を通して、教育に関わる諸課題を総合的かつ

多角的な見地から理解するとともに、実践的・先進的な資質能力を身に付けた教員を養成し、すべての学生たちを教員として世に送り出すことを目標としています。

そのため、以下のような資質や能力を有する人を求めています。

教育学部が 求める学生像

- 子供とコミュニケーションをとりながら共に学び続けたい人
- 学校教育の充実、創造に貢献したい人
- 特別支援教育の充実、創造に貢献したい人
- 現代的な教育課題に対して、他者と協働して広い視野に立った解決策を構想し実践したい人

学校教員養成課程とは？

横浜という立地条件により、様々なタイプ・能力・興味を持った学生が集まります。その多様性を活かしつつ、教育に携わりたい、教育を専門的に学びたいという学生一人ひとりのニーズに応え、探究心を引き出し、個性的ですぐれた教師、教育者を育成するよう心がけています。

本学部では学生たちが学校現場での実践と大学での学問・研究を自身の目的に合わせてうまく組み合わせ、体系的に授業プログラムを組み立て、計画的に学ぶことのできる環境を整えています。それによりどのような場面においても教育者の役割を果たせる能力を身に付けていくことができます。

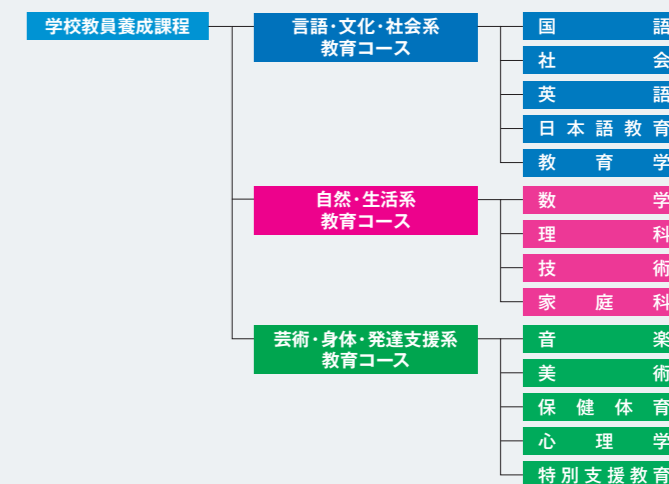
課程は3つのコースと14の専門領域から編成されています(右図)。すべてのコースにおいて学生は小学校教諭一種免許状の取得を義務づけられています。さらに、教科の専門領域では中学校教諭一種免許状を取得、特別支援教育専門領域では特別支援学校教諭一種免許状を取得することになります。入学後、様々な領域の内容に触れながら専門とする領域を選択し、選択後は専門領域に分かれて少人数の環境で学び、高度な専門性を身に付けることができます。

(P4～5参照)

また、社会の要請に応え、二種免許を取得しやすいカリキュラムに

再編しました。中学校教諭免許状や特別支援学校教諭免許状を持つ小学校教諭、複数教科の中学校教諭免許状や特別支援学校教諭免許状を持つ中学校教諭も養成します。

教育学部 学校教員養成課程の編成

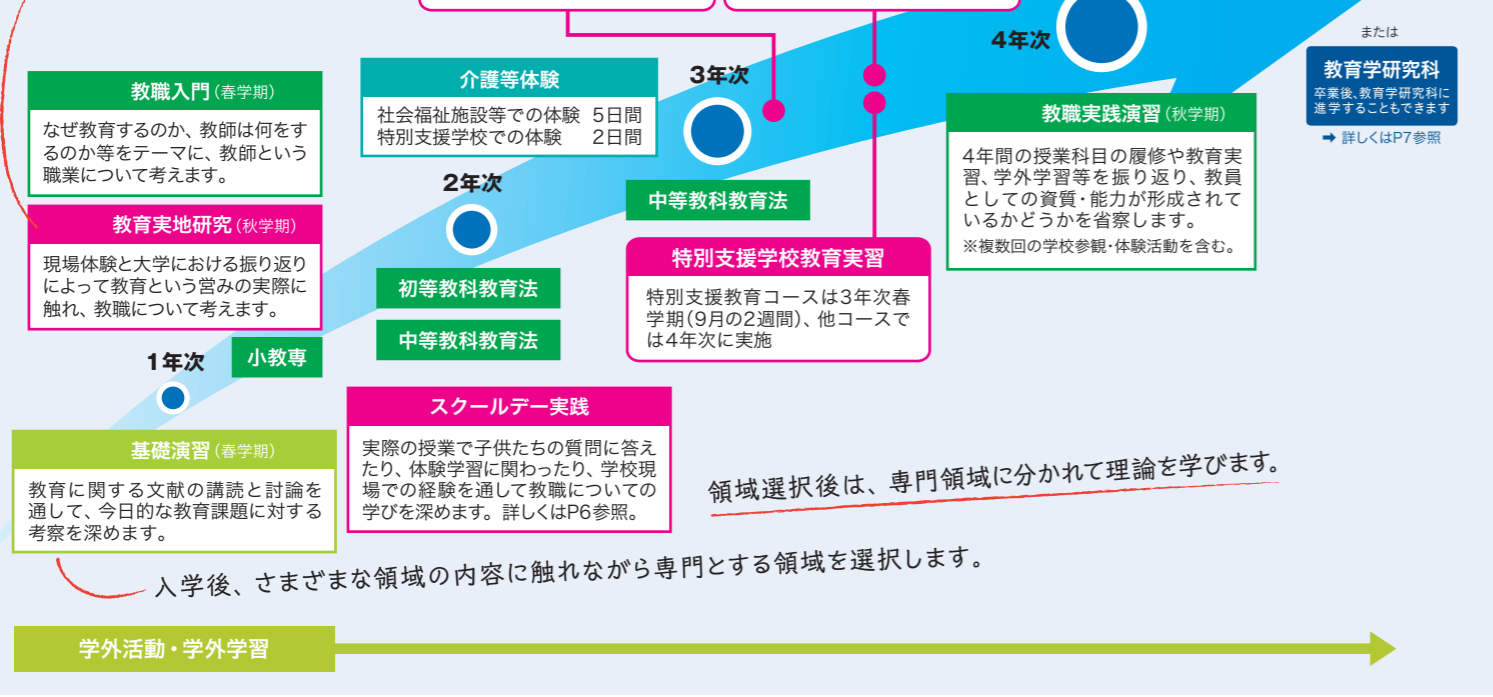


学校教員養成課程での4年間の歩み

1年次から小・中学校等に出かけ、子供と接したり、授業を参観したりします。この体験により、教師の仕事、子供の考え等について、多くの疑問が生まれてきます。この疑問こそが大学の授業を意味のあるものにしてくれます。そして、大学の授業を通して各自の疑問と向き合うことで、次の学校訪問では、子供の見方がより豊かなものになっていきます。3年次の教育実習では、子供をみる目が養われた状態で取り組むことができます。

教職カリキュラム概要

1年次から学校に出かけて実践力を磨きます。



教員として社会へ

小・中学校等で子供たちと接し授業を行うことで、教育という営みの奥深さ・難しさ・やりがいを実感します。小学校での教育実習を基礎として、コースによって中学校や特別支援学校での教育実習を履修します。

小学校教育実習
3年次春学期(5~7月の4週間)

中学校教育実習
3年次春学期(9月の2週間)
※一部の人は高校で実施

介護等体験
社会福祉施設等での体験 5日間
特別支援学校での体験 2日間

2年次

初等教科教育法

中等教科教育法

3年次

中等教科教育法

特別支援学校教育実習
特別支援教育コースは3年次春学期(9月の2週間)、他コースでは4年次に実施

4年次

教職実践演習(秋学期)
4年間の授業科目の履修や教育実習、学外学習等を振り返り、教員としての資質・能力が形成されているかどうかを省察します。
※複数回の学校参観・体験活動を含む。

教育学研究科
卒業後、教育学研究科に進学することもできます
→詳しくはP7参照

教職入門(春学期)
なぜ教育するのか、教師は何をするのか等をテーマに、教師という職業について考えます。

教育実地研究(秋学期)
現場体験と大学における振り返りによって教育という営みの実際に触れ、教職について考えます。

1年次 小教専

基礎演習(春学期)
教育に関する文献の講読と討論を通して、今日的な教育課題に対する考察を深めます。

スクールター実践
実際の授業で子供たちの質問に答えたり、体験学習に関わったり、学校現場での経験を通して教職についての学びを深めます。詳しくはP6参照。

領域選択後は、専門領域に分かれて理論を学びます。

入学後、さまざまな領域の内容に触れながら専門とする領域を選択します。

学外活動・学外学習

大学での授業

学生の声

- 講義で自分なりの考えや作品を創り、たくさんの先生や仲間と直接話すことで、将来教師になるイメージが強くなりました。
- 個性的で多彩な授業に、いつもワクワクしています!
- 観察・実験を通して、新しい科学の見方が得られました。



どんな免許を取得できるの?

学生の所属する専門領域は、入学時に専門領域が決まっている学生を除き、1年次の10月頃までに本人の希望及び入学後の学修状況を基に決定します(受入上限数を超えた場合は選考試験あり)。決定後はより高度な専門性を身に付けるために各専門領域に分かれて学習します。各専門領域では、下表に示す教育職員免許状を取得することができます。

コース	専門領域	資格・免許
言語・文化・社会系教育コース	国語/社会/英語	小学校教諭一種免許 中学校教諭一種免許(高等学校教諭一種免許状)
	日本語教育/教育学	小学校教諭一種免許
自然・生活系教育コース	数学/理科/技術/家庭科	小学校教諭一種免許 中学校教諭一種免許(高等学校教諭一種免許状)
	音楽/美術/保健体育	小学校教諭一種免許 中学校教諭一種免許(高等学校教諭一種免許状)
芸術・身体・発達支援系教育コース	心理学	小学校教諭一種免許
	特別支援教育	小学校教諭一種免許 特別支援学校教諭一種免許状

全員が小学校教諭一種免許を取得することを基本とします。さらに教科の専門領域では中学校教諭一種免許、特別支援教育専門領域では特別支援学校教諭一種免許の取得が必須です。高等学校教諭一種免許も希望によって取得することができます。また、本人の希望により、専門領域の枠を超えて、中学校教諭一種・二種免許、特別支援学校教諭一種・二種免許を取得することが可能です。

目指す教員像

次の3つの目標をもった教員を目指します。

- ◎**教育力と教科の専門性を身に付けよう** ———— 小学校での基本的な教育力を身に付けた小学校教員の養成を中心に、教育学・心理学、特別支援教育、中・高等学校の各教科等、領域ごとにより高度な専門性をも兼ね備えた教員を養成します。
- ◎**目の前の問題に立ち向かおう** ———— 多様な今日的課題(特別支援教育/インクルーシブ教育/ICT教育/異文化理解教育/外国につながる子供の学習支援等)と大学の学習を関連付け、問題解決にトライする教員を養成します。
- ◎**児童・生徒の未来を育もう** ———— 学習の本来のねらいである児童・生徒の生活の質の向上を実現するための学習デザインを構想できる、実践性に優れた教員を養成します。

教育実習

学生の声

嬉しかったのは「先生のおかげでできるようになった!もっとやりたい!」と言われた一言です。「やりたいけど分からない、できない」ことを「できる、もっとやりたい」にするのが教育だなあと感じました。



学外での体験で教師力を身に付けます

「学外活動・学外学習」は、大学で学んだ知識を社会の現場で積極的に実践していく活動であり、それを大学の単位として認定しようという制度です。社会のニーズに対応したボランティア活動を通して、将来の進路を見極めることができるだけでなく、学内での学習や研究を見直し、社会的・教育的な実践力を養うのに最適な場となっています。活動領域は次の3つです。

名称	活動内容
学外活動・学外学習Ⅰ 社会全般のボランティア活動	保土ヶ谷区役所インターンシップ・国際機関実務体験プログラムへの参加等
学外活動・学外学習Ⅱ 小・中・高校等での教育ボランティア	授業や課外活動等で、児童・生徒たちの学習活動を支援する
学外活動・学外学習Ⅲ 子供たちへの講座や交流活動	わくわくサタデー／がやっこ探検隊



様々な企画を通して子供たちに新しいことへ挑戦する楽しさや、何かができるようになることの嬉しさ、そして、何より違う学年・小学校の友達と活動する楽しさを知ってもらおうと、日々企画作りをしています！学生同士の交流も深まり、一生の思い出づくりができますよ！

スクールデー実践

2年次には春学期または秋学期に週に1回、アシスタント・ティーチャーやフィールドワーク研究、教材研究から選り活動するスクールデーがあります。実際の授業で子供たちの質問に答えたり、体験学習を手伝ったりする活動、元校長先生からアドバイスを受けながら学校現場でフィールドワークをする活動、子供の反応を想像しつつ、教材・教具等を作る活動が準備されています。授業見学を通して生じた疑問や興味が出てきた分野について、さらに深い内容を学校現場で学ぶことができます。



教室を出ていろいろな活動もします

在校生／卒業生からのメッセージ

私は広島出身で、高校3年生のときに初めてオープンキャンパスに参加しました。大学の第一印象として、先生方と学生さんの距離の近さや自然の広がるのびのびした環境に素敵さを感じ、「ここに通う!」と決めました。

入学してきた今、一人暮らしやサークル活動を楽しみながら、教師になるための勉強をしています。私は国語専攻であるにもかかわらず、今でも古典等苦手な分野があります。しかし、仲間と共に『源氏物語』を研究する授業を受け、初めて古典の面白さを感じられました。横浜国立大学には知識を得られるだけでなく、学ぶ楽しさを感じられる授業が沢山あることを日々実感しています。

そして、大事なクラスメイトや素敵な先生方に出会える、この大学を選んだ高校生の時の自分に拍手を送りたいです。



松浦恭子さん
学校教育課程

私は小学校教諭である父をきっかけに教師という職業に興味を持ち始め、横浜国立大学教育学部に入りました。教育学部には、教師を志す人にとって最高の環境が整っています。3年次にある教育実習以外にも、教育実地研究やスクールデー実践など、1年次から実際に学校に行き、実践的な力を身に付けるカリキュラムが整っています。また、学外活動やアシスタントティーチャーなどのボランティア活動も充実していて、私自身も学外活動を通して子供たちと交流を深めながら、自身のスキルを磨いています。そして何より、同じ目標を持ち、意欲的に学ぶ多くの仲間がいます。最高の仲間とともに、素晴らしい環境で切磋琢磨できる横浜国立大学。この大学に入って良かった、心からそう言える大学です。

私はこれからも素晴らしい環境で学ぶこと、沢山の経験ができること、そして、人々との出会いに心から感謝し、将来の夢を実現できるよう日々頑張っていきたいです。



崎原永都さん
学校教育課程

入学試験情報

学校教員養成課程では、時代の変化に合わせた特色ある入試を行っています。

入試種別	募集人員	試験内容
総合型選抜	25	小論文+個人面接(プレゼンテーション含む)+大学入学共通テスト
特別選抜	地域枠	小論文+個人面接
	全国枠	小論文+個人面接 (音楽専門領域のみ実技試験あり)
	帰国生徒選抜	小論文+個人面接
一般選抜(前期日程)	100	大学入学共通テスト+集団面接+小論文(教育課題論文) or 実技(音楽/美術/体育)

各入試の日程等詳細については、大学及び学部の入試関連のウェブサイトにも掲載されています。
 大学の入試関連ウェブサイト：<https://www.ynu.ac.jp/exam/> 学部の入試関連ウェブサイト：<https://www.edu.ynu.ac.jp/exam/>
 各入試の内容は学生募集要項で必ず確認してください。特別選抜の学生募集要項は冊子が発行されず資料請求できませんのでご注意ください。
 以下の本学ウェブサイトに掲載されますのでダウンロードの上ご参照ください。
<https://www.ynu.ac.jp/exam/faculty/essential/> (YNUホーム▶入試情報▶学部入試-資料請求・ダウンロード▶4.本学ウェブサイトからダウンロード)



学部の入試関連ウェブサイトへ

卒業後さらに実践や理論を磨きたいあなたへ

学部卒業後、さらに教育実践に関して研究を進めたいあなたには、教育学研究科が用意されています。

最新情報は教育学研究科ウェブサイトをご確認ください。

教育支援専攻	教職大学院(高度教職実践専攻)
心理学または日本語教育の専門的知識や理論、方法を学び、地域における心理的支援を行う力、国内外の教育機関における高度な実践力を身に付けるためのプログラムを用意しています。心理支援コースでは、公認心理師や学校心理士等の諸資格取得に必要な科目に対応したカリキュラムを提供し、講義・演習・実習を通して心理的支援をする上で必要な知識・技能の習得を目指します。また、調査研究や実践研究、実験研究等を行い、その成果発表や修士論文の執筆を通して、自身の専門性を高めていきます。日本語教育コースでは、日本語教育の専門的知識を獲得し、研究能力を身に付けることで自身が見つけた課題を追究します。国際都市・横浜の地域性を活用し、国内外の教育機関に貢献する日本語教育の専門家を目指します。	教育現場で即戦力として活躍できる高度な教育実践力・問題解決能力を身に付けることを目的とした専門職大学院です。本学教職大学院では令和3年4月より、自律的な学校運営と学校マネジメントを担うミドルリーダー、管理職候補、指導主事等の養成を行う学校マネジメントプログラムと、確かな学力の育成とそれを保障する授業改善や多様なニーズに適切に対応できる教員の養成を行う教科教育・特別支援教育プログラムの2つのプログラムへの組織改編を予定しています。 ◎取得可能な主な資格 <ul style="list-style-type: none"> 教職修士(専門職) 幼稚園・小学校・中学校・高等学校教諭、養護教諭、栄養教諭、特別支援学校教諭の専修免許状

* 横浜国立大学では、教育学研究科を組織改編し、令和3(2021)年4月より、教育支援専攻と高度教職実践専攻の2専攻になる予定です。ただし、本計画は現在、文部科学省に申請中であり、現段階では予定であるため、内容に変更が生じる可能性があります。

「教員は、スペシャリストかつオールラウンダーでなければならない」と最初に動いていた学校で校長先生から言われました。授業のスペシャリストであることはもちろんですが、クラスや部活動の運営、児童・生徒とのコミュニケーション(悩み相談や長所を伸ばす声かけ、etc)、学校行事の企画・運営、地域や保護者との連携等、教員にはさまざまな仕事があります。

横浜国立大学には、幅広い見識と高い専門性を得られる環境があります。私は4年間部活動に打ち込みましたが、教育ボランティアをしたり、海外に行ったりする友人もいました。そのような多彩な仲間たちとともに、実際に小中学校の現場に入って学ぶ等、授業カリキュラムや様々な体験を通し、学生生活の中で人として大いに成長することができました。学生時代の経験が、スペシャリストかつオールラウンダーであることを求められる教員の仕事に役立っています。



神谷紘祥教諭

私自身の学生生活を振り返りますと、何事にも消極的でとてもほめられたものではありませんでした。8年間動めあげれば返済が免除になる奨学金を頂いていたこともあり、早く卒業し社会に出て働きたいと思っておりました。

そんな私でも、一生の宝として今も感謝している授業があります。私が最も苦手としている体育の授業です。アーチェリーにトランポリン、シュノーケリングにスキューバダイビング等、初心者でも運動が楽しいと思える貴重な体験ができました。中でも教員として必須の泳力を身に付けるために、夏休みに補講を開いて特訓して下さったことが忘れられません。おかげで夢のまた夢と思われた平泳ぎの目標タイムに到達し、無事に単位が取得できました。このことが、小学校教員としての私の誕生に間違いなくつながっています。

学び続けることによって、自分自身の可能性や選択の幅が広がります。私は未来を担う子供たちに学校教育がもたらす恵みを信じております。



須山佳代子校長